

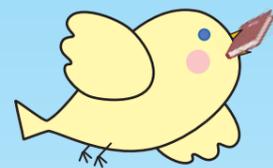
子どもが本と出会うために  
—こんなことから始めましょう—

- 1 生まれる前から  
絵本のある家庭環境づくりを進めることは、子どもが本と出会うきっかけづくりにつながります。
- 2 はじめての絵本  
早い時期から絵本に出会えるようにしましょう。
- 3 子どもへの読み聞かせ  
たくさんの機会を捉えて、子どもたちの豊かな読み聞かせ体験を推進しましょう。
- 4 子どもに本をすすめましょう  
子どもたちに様々な場、方法で本を紹介しましょう。
- 5 親子で読書を  
機会をつくって親子（家族）読書を推進しましょう。
- 6 イベントや行事に参加しましょう  
イベントや行事を通して本の楽しさに出会えます。親子で、家族で、子ども同士で参加しましょう。

このほかにも、もっとたくさんの取組がありますね。  
子どもにかかわる全ての人それぞれが、よりよいアイデアを出し、工夫して取り組んでいきましょう。

子どもが主体的に本に親しむために  
—こんなこともできますね—

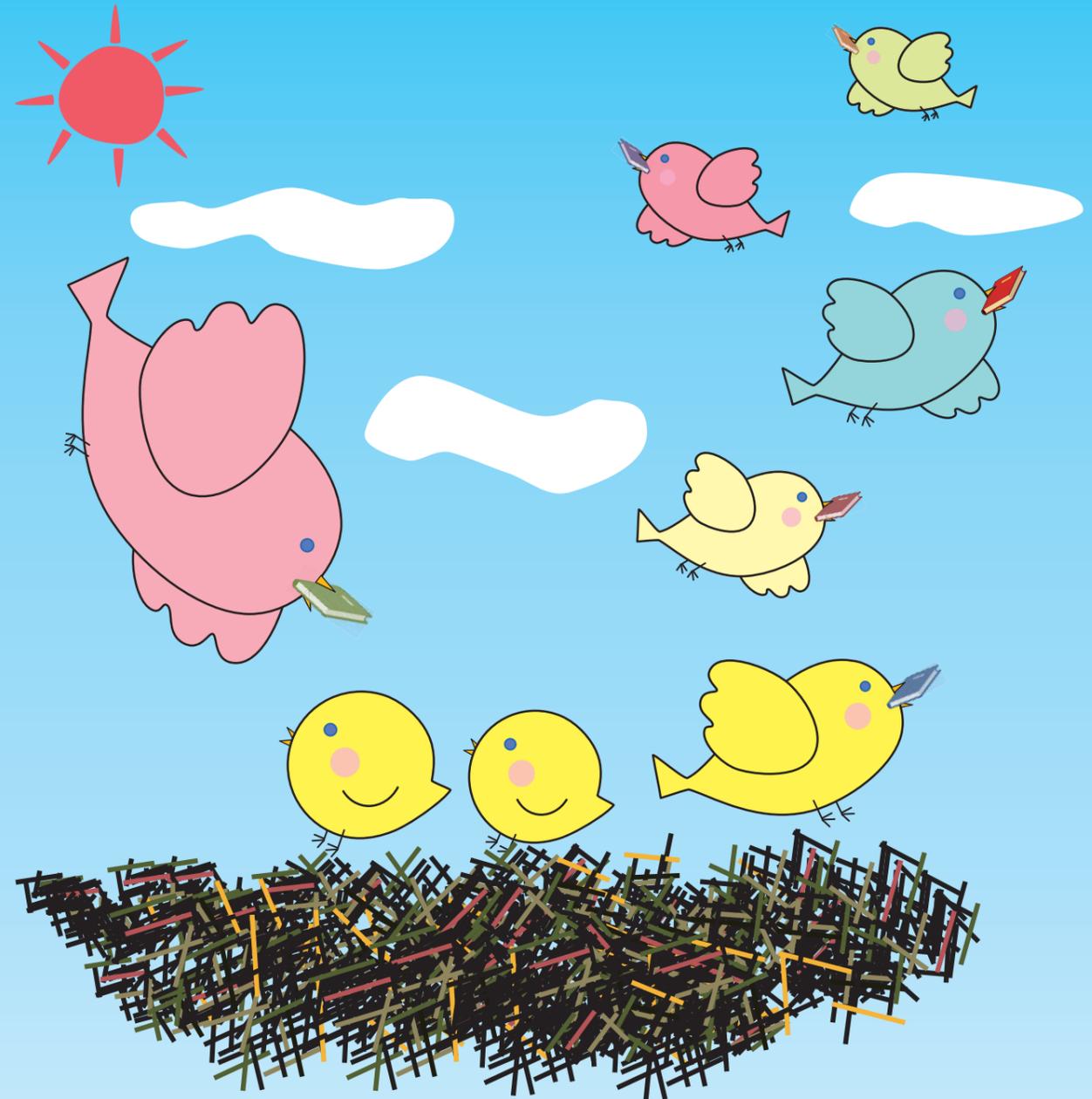
- 1 本について話しましょう  
子どもたちが、同じ本を読んだ人と、本について語りあえるようにしましょう。
- 2 友だちに本をすすめましょう  
子どもたちが、色々なところで、友だちに自分の好きな本をすすめられるようにしましょう。
- 3 今度は私が読み聞かせ  
子どもたちが、色々なところで、小さい子やお年寄りなどに積極的に読み聞かせができるようにしましょう。
- 4 図書について学びましょう  
子どもたちが、図書館などにある専門性の高い人から学べるようにしましょう。
- 5 子ども読書サミット  
多くの前橋の子どもが集まり、自ら考え、議論し、そして全国の子どもたちへ発信していくようにしましょう。



みんなで一緒に第二次計画をすすめてみましょう

前橋市子ども読書活動推進計画（第二次） 概要版

## 伝えよう 本のすばらしさを



巣の中で、親鳥からたくさんの読み聞かせをしてもらった小鳥たち。  
本との出会いを糧にし、ゆっくりと成長しました。  
そして、たくましく成長した小鳥たちは、自らの羽で大空に飛び立っていきます。

前橋市教育委員会事務局 図書館 前橋こども図書館 TEL027-230-8833

前橋市子ども読書活動推進計画（第二次）の本文は、前橋市立図書館ホームページからご覧いただけます。  
<https://www.tosyokan.city.maebashi.gunma.jp/>

前 橋 市 教 育 委 員 会

## 目的

平成21年3月に「前橋市子ども読書活動推進計画」(第一次計画)を策定し子どもたちが本と出会う環境づくりを進めてまいりました。

このたび、第一次計画におけるこれまでの取組状況や成果等を整理し、引き続き、「子どもたちが心豊かに成長していく」ことをめざして、「前橋市子ども読書活動推進計画(第二次)」(第二次計画)を策定することとしました。

## 基本的な考え方

第二次計画では、これまで進めてきた「本と出会うきっかけづくり」をさらに充実し、本の「楽しさ」や「すばらしさ」を感じ、伝え合う様々な読書体験を積み重ねる中で「子どもが主体的に本に親しむ」ことを目標に、様々な取組を進めます。

そこで、第二次計画のテーマを

## 伝えよう 本のすばらしさを

としました。

目標に向けて、本市の様々なところで連携しながら、本と子どもたちをつなげる「人」の役割を重視し、子どもたちの読書環境を整備していきます。

すべての子どもたちが、読書を通して様々な人とかかわり、本の楽しさを感じ、知識を深め、感動を「人」と共有することなどを通して、心豊かに成長していくことを願い、第二次計画に取り組んでまいります。

これらの実現のためには、行政だけでなく、市民の皆さんと一緒に取り組む必要があります。

## 取組の1

### 子どもが本と出会うために

子どもたちに「本のすばらしさ」を伝えていくために、第一次計画で進めてきた「本との出会い」をさらに充実していくことが大切です。特に、本と子どもたちをつなげていく「人」のかかわりを大切にして、前橋の子どもたちが、本と出会うきっかけづくりをすすめていきましょう。

## 取組の2

### 子どもが主体的に本に親しむために

本と出会い、感動体験をすると、その本の楽しさやすばらしさを友だちや周りの人に伝えたいと思うことがあります。他の人の感動体験を聞いて、その本への親しみや関心が高まることもあるでしょう。また、その感動体験や思いを自分の言葉として記録するだけでも、見方や考え方が広がり、心の成長の糧となることもあります。

本を読んだ経験や感じたことを言葉にしたり、他の人と分かち合ったりすることが、主体的に読書をする上でも大切です。

前橋の子どもたちが、自分で本を選び、読んだ本のすばらしさを伝えられる場面をたくさん作り、主体的に本に親しめるよう、みんなで取り組みましょう。

## 伝えよう 本のすばらしさを

家族から子どもへ

## 子ども同士



子どもたち同士でおすすめ本の紹介

## 対象

15歳以下を主に、おおむね18歳以下の子ども及びその保護者等子どもにかかわる大人

## 本と子どもたちが

## 人でつながる

大人から子どもたちへ

大人同士

## 子どもから周囲の人へ



子どもたちが地域で読み聞かせ

## 期間

平成26年度～平成30年度  
(5年間)

## 本のすばらしさを伝える施設の充実

### 利用してもらうための工夫

子どもが利用する施設では、いつでも様々な本に触れることができる環境づくりが大切です。児童書などの図書資料を充実し、これらの本を子どもたちにつなげる工夫も重要です。

### 子どもと本をつなぐ人の役割

子どもに本のすばらしさを伝えたり、子どもが気軽に本について相談したりできるような「人」の存在が大切です。

図書館の職員、ボランティア、学校や幼稚園の先生、保育所(園)の保育士など、子どもの読書にかかわる全ての人々が、子どもに積極的に声をかけるなど、その役割を工夫しましょう。